

The 40th 第40回東京モーターショー2007

TOKYO MOTOR SHOW 2007

News vol.3



平成19年10月27日

世界に、
未来に、
ニュースです。

Catch the News,
Touch the Future.



華やかに「第40回東京モーターショー2007」開会式

—10年ぶり 新・総合ショーがスタート—



「第40回東京モーターショー2007」の開会式が26日、総裁の寛仁親王殿下ご臨席のもと、会場の幕張メッセ国際コンベンションホールに、政・官・財界や各国大使館からの来賓をはじめ業界関係者など600人を超える人々が集って、華やかに挙行された。

今回は新しい総合ショーの立ち上げと第40回開催という節目を記念して、開会式に先立ち、午前10時から畑村洋太郎工学院大学教授が「失敗学の視点から見た21世紀のものづくりのあり方」をテーマに特別講演を行った。

引き続き10時半から開会式に移り、主催者の日本自動車工業会を代表して挨拶に立った張富士夫会長は、「東京モーターショーが1997年以来10年ぶりに、乗用車・商用車・二輪車・車体・部品・機械器具関連製品による総合ショーに生まれ変わり、40回目の開催という節目の年に新たなスタートを切ることができた」として、出品者をはじめ関係各方面の支援に謝意を述べた。

次いで今回のショーテーマを「世界に、未来に、ニュースです。」としたことに触れ、「出品面ではワールドプレミアの車両77台、部品95件の他に、生活に多彩な楽しみな方や感動を提供するクルマが多数集められており、世界や未来に向けて発信さ

れる最先端のモデルや技術をつぶさにご覧頂きたいというメッセージが込められている」と、そのめざすところを説明。さらに「ひとりでも多くの方々にクルマの夢、楽しさ、素晴らしさを体感して頂けるようなお客様参加・体験型の試乗会やシンポジウム、お子様向けの体験教室など多彩なイベント企画を充実させている」と、会期17日間を通じてショー来場者に幅広く、熱く呼びかける形で挨拶を結んだ。

このあと甘利明経済産業大臣（代読・山本香苗政務官）、冬柴鐵三国土交通大臣、堂本暁子千葉県知事、カルロ・シンチュェリOICA（国際自動車工業連合会）会長の来賓各位がそれぞれ祝辞を述べ、青木哲自工会副会長が開会を宣言。場内に鳴りわたるファンファーレとともに、寛仁親王殿下がテープカットされると、一斉に盛大な拍手が巻き起こる中を、11時に無事閉会した。

1,100人の招待客が和やかにご歓談



祝賀ムード溢れるレセプション会場

第40回東京モーターショーの開会式終了後、午後1時から国際会議場2階のコンベンションホールでは寛仁親王殿下ご臨席のもと、祝賀レセプションが盛大に行われた。第40回という記念すべき節目のショーで、世界11カ国・1地域、4政府が出品。祝賀レセプションには、グラハム・フライ駐日英国大使をはじめ、カルロ・シンチェリオICA会長ら外国人招待客の姿も多く見受けられ、国際交流の場にふさわしい華やかな雰囲気包まれた。



寛仁親王殿下にごあいさつする
グラハム・フライ駐日英国大使



張会長と歓談するカナダ大使館の
デイヴィッド・デヴァイン参事官



甘利大臣と豊田章一郎トヨタ
自動車名誉会長



左から堂本知事、豊田名誉会長、
冬柴大臣

張会長のあいさつに続いて、公務のため、開会式の途中から駆けつけた甘利明経済産業大臣が「日本の自動車産業がこれからも世界で、日本で、リーディングインダストリーであり続けて欲しい」と、祝辞を述べた。青木副会長の乾杯の発声で祝宴を開始。政・官・財界の首脳、内外の自動車メーカーのトップなど1,100人を超える来賓、特別招待客が出席し、祝賀ムード溢れるなか、午後2時過ぎに閉会した。

特別講演

26日の東京モーターショー開会式に先立ち、会場の幕張メッセ・コンベンションホールでは、工学院大学の畑村教授が特別講演を行った。



講演テーマは「失敗学の視点から見た21世紀のものづくりのあり方」

畑村教授は、まず「ものづくり」を取り囲む最近の社会環境の変化がいかに多くの弊害をもたらしているか——から説き起こした。エレクトロニクス化やマニュアル化の進展に応じて、人間と機械の分担領域や組織が求める役割分担の建て前と実態との間のすき間がどんどん広がっている点、また技術者が持っている①大きなもの、高いもの、速いものを作りたがる②変えたがる③しゃべりたがる——の3つの性癖を、日本の製造業を危うくしている課題として図解や具体的事例を示しながら指摘。これを是正、改善していく道として、「日本の自動車産業にはよく浸透している」と前置きしながらも現地・現物を実際に人が見てチェックする現人（げんにん）を加えた“3現”、あるいは「暗黙知」を表に現し組織内で共有することや、失敗事例から企画時の想定漏れを導き出す逆演算思考の励行などが必要であることを強調した。

そして、これからの日本の製造業が国際競争に立ち向かっていくには「見ざる・聞かざる・言わざる」の古い“3猿”組織の弊害から脱却して、「見せない・喋らない・触らせない」の“新3猿”防衛スタイルを確立すべき。また個人が全体を作り出す考えを持ち寄ることで集団としての真の共有化が図れる、全ての人がこの考えを共有する姿が21世紀のものづくりのあり方だ、として講演をまとめた。

寛仁親王殿下が会場内をご高覧

環境や人にやさしい近未来カーに強いご関心



電気自動車で会場内を
ご高覧中の寛仁親王殿下



開会式終了後、寛仁親王殿下は電気自動車にお乗りになり、張富士夫自工会長の案内で、東ホールから、中央ホール、西ホール、タイヤ・オーディオ館、北ホール、西休憩ゾーンの順で、約1時間半にわたり、会場内をご高覧された。それぞれの展示ブースでは、環境や人にやさしい近未来のコンセプトモデルに強い関心を示されたのはじめ、斬新なデザインの次世代スポーツカーなどにも興味を示されていたご様子だった。

また、甘利大臣、冬柴大臣、堂本知事らの来賓は、青木副会長の案内で場内を一巡した。堂本知事は「出品各社が取り組んでおられる環境・安全などの対応の成果に興味深く見ることができた」と、感想を述べていた。

本格的オフロードコースで プロのテクニックを存分に味わう



横転ギリギリ!?
スリリングな
キャンバーの横傾斜



プロのドライバーがテクニックを披露

幕張メッセ近隣の幕張海浜公園Gブロック内の特別専用コースにおいて、四輪駆動車での本格的なオフロード走行を体感できる「4×4アドベンチャー同乗試乗会」が実施されている。

トヨタ「ランドクルーザー200」、日産「エクストレイル」、三菱「パジェロ」、メルセデス・ベンツ「GLクラス」、クライスラー「ジープ・コマンドー」など、市場でも人気の本格オフロードSUVの走りを体験できるとあって、人気のイベントとなっている。

試乗コースは丸太を敷き詰めて大きな凹凸を作った「V字モグル」、斜面を傾斜と直角の方向に走る「キャンバー」、台形のアップダウンと水たまりを乗り越える「テーブルトップ／ウォーターゾーン」、蛇行運転を行う「スラローム」、最後に高さ4mの急斜面を昇り降りする「クライムヒル／ダウンヒル」など、オフロード競技さながらのレイアウト。

プロのオフロード・ドライバーの運転するSUVの助手席、後席で体感するダイナミックな走行フィールは迫力満点。コース外から見れば大した凹凸に見えないV字モグルでも、車内では体が大きくゆすられる。

キャンバーでは雑な操作を行うと車が横転しかねないほどの横傾斜を体験できる。もちろんプロドライバーのドライビ



最大斜度40度の
ディセンド（降下）
は落下するかのよう



ングテクニックにかかれば、難コースも楽々とパス。コースのヤマ場はクライムヒル／ダウンヒル。とくに降下側は最大斜度40度と、まるで落下するかのような迫力の走りを味わうことができる。

オフロード4WD車は、所有してもその資質を存分に発揮できるような場所が少ない。4×4アドベンチャー同乗試乗会は、手軽にオフロード4WDの楽しさの一端に触れることができる格好のチャンス。ぜひ体験しておきたいイベントだ。



意外に難しいV字モグル



排気量660ccから5000cc超まで、さまざまなタイプのオフロード車に同乗試乗が可能

日本自動車工業会による公式サイトは基本情報が満載



東京モーターショーの主催者、日本自動車工業会(JAMA)は、第40回東京モーターショーの公式サイトを開設している。ショーの概要、プレスリリース、宿泊情報、モーターショーニュース、過去のモーターショーの記録などの基本的な情報のほか、モーターショー事務局スタッフによるデイリー情報を載せたブログ、キッズ向け情報ページなども用意されている。日本語、英語の両言語に対応しているほか、概要については中国語、韓国語、タイ語表記も。
<http://www.tokyo-motorshow.com/>

モーターショーのアクティブ情報は公認サイト goo にお任せ

ポータルサイト大手の「goo」は、第40回東京モーターショー唯一の公認サイトだ。過去のコンセプトカー情報から報道公開日に行われるプレスブリーフィングの映像、クルマやイベントに関するデイリーニュース、ショー会場に華を添えるコンパニオン情報など、ためになる話題からバラエティ企画まで、東京モーターショーのアクティブな情報を豊富に発信している。また会期中、東京モーターショー関連情報を簡単に検索できるgooスティックのダウンロードサービスも。
<http://motorshow.goo.ne.jp/>



回を重ねるごとに好評の「車いす利用者特別見学日」

バリアフリーへの対応拡大はなにも車両の世界だけではない。東京モーターショー自体が、どんな人にも優しく、楽しい祭典へと進化してきている。プレスデー2日目の25日午後、車いす利用者特別見学会が設けられ、290人の車いす利用者と同伴者387人の方々がどっと来場。各ブースの奥深くにまで分け入って熱心にクルマを見たり、コンパニオンと気さくに記念写真を撮ったりと、健常者と変わらず存分にモーターショーを楽しむ光景がそこかしこで繰り広げられた。

同見学会は目線の低い車いす利用者の方にもゆったりした環境でショーを見てもらおうと第37回ショー(2003年)から始めたもので、第39回(05年)に続き今回が3度目のチャレンジ。回を重ねるごとに車いす利用者の満足度と関心が高まってきている。川崎市から一人で運転して来た中島一也さん(48歳)は3回すべての参加組。「スタッフの人たちの対応が毎回良くなってきて、ホントにうれしい」と笑顔がこぼれる。新潟県は新発田市から参加の宮川弘行さん(仮名、44歳)も「例えばエレベーターの上がり下がり時など大変親切にしてもらえた」「メーカーのブースも以前よりスロープをゆるやかに作ってくれている所が多くなった」と感



期待も一直線の受け光景

激の面持ち。宮川さんはこの4年間で15万kmもの走行をこなしたヘビードライバー。中島さんは20年近くハンドルを握る。「来年の車検切れ時にはスポーツカーへの買替えも考えているんですよ」。車いす利用者にとってもクルマはごく身近な存在になってきているようだ。

主催者はこうした背景も踏まえ今回は、26人のスタッフに加えて56人の地元ボランティアによる受け入れ体制で臨んだ。ボランティアへの事後アンケートでは「とても喜んでくれた」との反応が多く、「みなさん生き生きとした顔付きで戻って来られた」(事務局)という。

EVENT

今日のイベント(予定)
10月27日(土)

- **シンポジウム** (国際会議場2階 国際会議室)
14:00~15:30 - 「第5回みんなで考えよう クルマの税金」
- **少年少女モーターサイクルスポーツスクール** (中央休憩ゾーン)
 午前の部/10:00~12:05 - 試乗券配布 9:30~
 午後の部/14:00~16:05 - 試乗券配布 12:30~
- **スロットカー・サーキット**
9:30~19:00 - (北ホール2階・キッズパーク)
- **ミニシアター~クルマの夢・楽しさ・素晴らしさ~**
10:40~12:25 - (国際会議場3階 302号室)
13:05~18:30 - (国際会議場3階 302号室)

- **幼児くるま絵画展 表彰式**
14:00~14:10 - (北ホール2階キッズパーク「トミカ・チョロQコーナー」)
- **4×4 アドベンチャー同乗試乗会** (特設専用コース)
11:00~16:00 - 幕張海浜公園Gブロック内
- **セーフティドライブ体験試乗会** (特設専用コース)
11:00~16:00 - 幕張海浜公園Gブロック内
- **クリーンエネルギー車同乗試乗会** (特設専用コース)
11:00~16:00 - 幕張海浜公園D・Eブロック内
- **商用車同乗試乗会** (幕張メッセ南休憩ゾーン東側通路発着)
11:00~16:00 - 幕張メッセ周辺公道

※試乗券配布場所: 幕張メッセ南休憩ゾーン西側 ※天候等の都合により予定が変更になる場合があります。

KONICA MINOLTA

The essentials of imaging

高速・高画質・高品質 毎分65枚フルカラー出力

印刷から加工までインラインで高速処理。多様なニーズに応えるハイパフォーマンス。
*A4コピ

ON DEMAND PUBLISHER C65

このニュースは、コニカミノルタ ON DEMAND PUBLISHER C65で出力しています。

コニカミノルタ ビジネスソリューションズ株式会社
 プロダクションプリント事業部
 TEL. 03-5205-7820
 URL: <http://konicaminolta.jp/pr/odp>